

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 学び方のスキルについて

能動的に学び続ける力に繋げる
「学び方のスキル」

学び方のスキル

個別最適な学びのスキル（4項目）

・学習の見通し・めあて（課題）設定・学習の進め方・振り返り

【興味・関心、学習形態、ツール、習熟度、時間】

協働的な学びのスキル（1項目）

コミュニケーション

学び方のスキルとは、児童が自律的に学び、能動的に学び続ける力につなげるために必要なスキルのこととしている。このスキルを、個別最適な学びのスキルと、協働的な学びのスキルの2つに整理した。個別最適な学びを「学習の見通し」「めあて（課題）設定」「学習の進め方」「振り返り」に分類した。協働的な学びのスキルはコミュニケーションである。

学びの姿のイメージを
児童と共有する

例：Figjam上でいつでも参照＋意識付け

△がわかる資料が必要にな！

★学び方のスキル★

コミュニケーション

振り返り

・仲のいい(話しやすい)友達だ	・振り返りの視点に沿って書くことができる。
意図をもってアウトプットすることができる。	・その授業だけでしか書けない振り返りを書くことができる。
・「考え方を表す言葉」を意図的に使ってアウトプットすることができる	・見方・考え方を入れながら書くことができる
	・量→質

クラウド上で「学び方のスキル」を共有し、共通理解を図る。どんな学び方のスキルを意識するのか、どんなスキルを発揮する姿を目指すのかを児童と教師が明確に持つておくことが重要である。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 学び方のスキル育成に向けた共通実践

「学び方のスキル」の育成

授業改善部会

学習過程を意識する（させる）

学習過程を黒板やホワイトボード、Google Classroom上に提示し、児童と教師が学習の流れを共通理解する。学習過程を共有することで、課題解決に向けた見通しが明確になる。また、学習過程を明確にすることは、児童の自律的な学びを支え、深い理解へと繋がる。ゴールの姿や見方・考え方、課題解決のポイントなどを共有することもある。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 学び方のスキル育成に向けた共通実践

「学び方のスキル」の育成



授業改善部会

手立て表を各教室で保管

アナログとデジタルで
学び方のスキルを共有する

クラウド上で加筆修正しながら

児童の学び方のスキルを育成するための教師の手立て・具体例集

本渡南小学校の先生方が取り組んできた実践の中で効果的であった手立てを集めてみました。
今後も授業改善に努めながら、学校全体での共通実践につなげ、研究を進めていく予定です。

1 「学習の見通し」のスキル

低：慣れる・一緒に決める	中：自己決定	高：自己調整
手立て □ 1-(1) 単元のゴール・身につけたい力を明確に可視化して児童と共有する。 □ 単元計画や単元のゴールを教室に掲示したり教科書で確認したりする。	□ 単元計画や単元のゴールを教室掲示やクラウド上で示して児童と話し合いながら単元計画を立てる。 (クラウド上…Googleクラスルームを主に使用) □ 「何時間くらいで活動ができそうですか。」 □ 「学習の流れは、この順番でいいですか。」	□ 単元計画や単元のゴールをクラウド上で示す。 (クラウド上…Googleクラスルームを主に使用) 単元目標：日本の工業を振興させるための「工業を生かしたヘルスケア技術」を作ろう！ パフォーマンス課題 最終キーワード ※パフォーマンス課題とは…単元を通して考えていく、実生活に近い内容を含んだ子どもの意欲を高めるための課題。 ※ルーブリックとは…評価を表として示し、児童と教師が共有するもの。(高学年のみ活用)

※「単元のゴールを一緒に確認しましょう。」

☆ スプレッドシート…単元の学習課題に対する考えの発案、振り返り等に活用させる。

※ スライド…ポートフォリオ形式で児童に配布し、一時間ごとの記録(ノートの代わり)に活用させる。

※ ジャムボード…単元導入時、個人用を白紙で共有しておき、紙のノートの代わりとして活用させる。

「学び方のスキル」を育成するために、アナログとデジタルの両方を組み合わせた工夫を行っている。アナログの取組では、机の上にプリントを貼って、いつでも目にするようにしている。デジタルでは、クラウド上に「学び方のスキル」のチェックシートを作成し、児童自身が自己評価できるようにしている。アナログとデジタルを組み合わせることで、より効果的に「学び方のスキル」を定着させる取組を行っている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 学び方のスキル重点項目の設定と振り返り

「学び方のスキル」の育成			授業改善部会
9.10月 全学年重点項目「コミュニケーション」			
	「学び方のスキル」9.10月重点項目（最高2つ）	理由や具体的な手立て等	振り返り（月末）
低学年部	学習の見通し コミュニケーション	【学習の見通し】 - 児童が単元の流れをつかむことで安心して学習に向かえるようにするため。 - 単元のゴール・身につけたい力を明確に可視化して児童と共有する。（掲示物） 【コミュニケーション】 - ペア学習のねらいをつかませる。（単なる伝え合いにならず意図をもって活動できるように） - 考えをもてなかったときも、自分から相談に行けるように。	【学習の見通し】 - 単元の学習の流れは国語・算数バージョンを作成 - 単元のゴール・身につけたい力は単元は必ず児童と確認し、広用紙に書き掲示できた 【コミュニケーション】 - 仲のいい子との伝え合いになり、なかなか意図をもって活動させることができなかった - 亀川小の取り組みの例をもとに、だれとコミュニケーションをとることができるのか掲示物を用意してみたい - 低学年なので、こちらから個別に「〇〇してみようか」と誘導も必要
中学年部	学習の見通し コミュニケーション	【コミュニケーション】 - 困ったときに、自分から動く児童を育てるため。 - 手立て - ペアやグループ、全体での学び合いの目的を示す。 - 他者の考えを参考にできる場作りをする。（聞きに行き、クラウド上で確認するなど） 【学習の見通し】 - 次に何をすべきか考えて学習する児童を育てるため。 - 手立て - 学習過程を板書やクラスルームに示す。 - 進度差に応じた課題や活動を準備する。	○4年部では、社会科を中心にクラウド上での他者参照に取り組んでいる。 ○3年部では、スプレッドシートやスライドなどを使って他者参照できるようにしている。 ○自分から友達の見え方を見ようという意識を育てていく必要がある。 ○意見を出し合う時間が短縮できるので、深く合う活動に時間を確保できる。 ○学習過程を提示することで、自分の速度に合わせて学習ができるよさがある。ただし、どこで全体指導を入れるかが課題。
高学年部	学習の進め方（学習形態） コミュニケーション	【コミュニケーション】 - 全体の前での発表の機会の確保 - 単元終末で全体orグループで、まとまった自分の考えを発表する場の確保 - 話し方・聞き方・意見の繋ぎ方等の具体化、価値観の共有 【学習の進め方（学習形態）】 「こんなときこそアウトプット」の活用 「今、○○さんと交流しているのはなぜ？」	・全体発表の確保（5年部） ・アウトプットの価値付け～考えをつなぐ ・△アウトプットを促す必要がある ・「つなぐ」
特別支援部	学習の見通し コミュニケーション	※振り返り2つの視点から記述させる ・授業のはじめに、板書や学習ボードで確認を行う児童が決めたり、入れ替えたりする場を設定する ・児童の興味関心や強みを生かして、教材・教具を準備する。 - 例：具体物or半具体物orイラスト 鉛筆orペンorチョークorタブレットor文字カード ・コミュニケーションの方法を選ぶように朝の会を進化させる。 - 例：発表の場、文字、反復、言い方、答え方	○コミュニケーション ・高学年は特に慣れているので、個に応じたルール強化が必要だと感じている。けじめ ・授業の中での反応に重点を置いた。発信は得意だが...取組中である。 ・一日一回、授業の中で発表することを目標にしている。少しずつ慣れてきている。 ・話型を使っているコミュニケーションは、上達してきた。（通級学級） ・色々な先生方に関わっていただき、話合いの学習ができた。

教師が毎月
重点項目の設定と振り返り

教師が「学び方のスキル」の育成に関する月別の重点項目を毎月設定し、校内研修の中で振り返りを行っている。

主な内容は、学年別目標、教師の具体的な手立て、振り返りの3点である。スキルの項目を設定するだけでなく、スキルのイメージや活動内容、手立てを協議し、より具体的な授業改善に繋がるようにしている。また、振り返りを重視している点も特徴である。取組の効果を検証し、改善につなげるための仕組みを設けている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 学び方のスキルの定着度

「学び方のスキル」の育成



授業改善部会

重点項目 学び方のスキル「**学習の進め方（学習形態）**」について

質問「一人学びや学び合いを自分で決めたり、調整したりしながら学習を進めることができますか。」

→全学年90%以上が「いつもできる・だいたいできる」と回答

いつもできる、だいたいできる、あまりできない、できない

低学年



3年生



4年生



高学年



「一人学びや学び合いを自分で決めたり、調整したりしながら学習を進めることができますか。」という質問に対して全学年で90%以上の児童が、「いつもできる」か「だいたいできる」と回答している。学年ごとの比較: 低学年、中学年、高学年ともに、概ね同様の傾向を示しており、多くの児童が学習の進め方を自分で決めたり調整したりできるようになっている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】教科の理論を学ぶ

国語科、算数科、社会科の
理論をスライドで説明＋共有

「問い」を立てる練習について

「わたしの問い」とは・・・
一人一人の児童が自分に合った
課題を設定する
個人のめあてが「わたしの問い」

どのように「わたしの問い」を立てるのか

「私の問い」を立てるというのは、
何でもいから問いを立てるのではない。
教師と児童が、同じゴールを見据えて、
問いを立てることが必要。

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習
問いは何のために立てるのか

問いを立てる目的は、生涯を通して主体的に学び続けること
ができる人として成長する基礎となる「問い」を立て、
それを解決していくことで「力」を育てるためです。

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習
どうすれば子どもたちが自分の「問い」を立てる
ようになるのでしょうか？

その中で子どもが力を身に付けたいのか、考えあぐ
ること。
子どもに問いを持たせる際に、教科研究をし、教師自身が
子どもの問いに答えられること。
教師自身が問いを立て、例としてあげ、選択することから
はじめる。

ステップ② 児童と「問い」を立てる練習
「自分の問い」を立てる練習
「自分の問い」を立てる練習
「自分の問い」を立てる練習

職員による
教科理論の共通理解

主幹教諭による算数の理論共有

指導教諭による国語の理論共有

児童と「問い」を立てる練習

学習のポイントその①「社会の目（見方）」

分類	問い	問い	問い	問い
「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い
「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い
「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い	「知ること」のための問い

新しい教科書も、見方・考え方を増かせる
問いの深達方法が記載されている

学習過程（単元導入などで示す）

学習過程の型（毎時間クラスルーム上で示す）

自分なりのポイントを見つけて、学びの「質」を高め
型を教える

参照しながら自分で学びを進める
→少しずつ情報を減らしていく

児童が主体的に学ぶ中で、教科の本質
に近づいていけるよう、各教科の理論を
教師間で共有し、教師の役割について考
える時間を設定した。

問いの立て方、見方・考え方、学習過
程（課題設定～まとめ・表現）の回し方
の例を共有し、具体的な授業イメージや
教師の手立てについて全職員で考えた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容②】 情報活用能力の育成

朝自習の時間等に毎月実施

※「内容」のプルダウンは、1～3年生はスキル編、4～6年生は探究編の目次を入れています。

11月21日(木)		12月19日(木)		1月9日(木)		2月6日(木)		3月13日(木)	
内容	実施	内容	実施	内容	実施	内容	実施	内容	実施
1-1 ①写真や...	☒	④情報や...	☒	②キーボード...	☒		☐		☐
1-2 ①写真や...	☒	④情報や...	☒	②キーボード...	☒		☐		☐
2-1 ①写真や...	☒	④情報や...	☒	②キーボード...	☒		☐		☐
2-2 ①写真や...	☒	④情報や...	☒	②キーボード...	☒		☐		☐
3-1 ①情報や...	☒	⑥プレゼン...	☒				☐		☐
3-2 ①情報や...	☒	⑥プレゼン...	☒				☐		☐
3-3 ①情報や...	☒	⑥プレゼン...	☒				☐		☐
4-1 ①(参考)...	☒	⑥(参考)...	☒				☐		☐
4-2 ①(参考)...	☒	⑥(参考)...	☒				☐		☐
4-3 ①(参考)...	☒	⑥(参考)...	☒				☐		☐
5-1 ①身の回...	☒	⑤情報社...	☒				☐		☐
5-2 ①身の回...	☒	⑤情報社...	☒				☐		☐
6-1 ①情報や...	☒	⑤情報社...	☒				☐		☐
6-2 ①情報や...	☒	⑤情報社...	☒				☐		☐
スキル編		スキル編		スキル編		スキル編		スキル編	
11月21日(木)	探究編	12月19日(木)	探究編	1月9日(木)	探究編	2月6日(木)	探究編	3月13日(木)	探究編
①写真や...	☒	②キーボード...	☒		☐		☐		☐

「私たちと情報」で
情報活用能力の育成

児童用ミッションシート

1. 2年生 Googleチャレンジ ミッションシート				3. 4年生 Google チャレンジ ミッションシート			
月	ミッション	どう目	情報	月	ミッション	どう目	情報
9	ログインしてみよう	①	パスワードをにやうりくして ログインしよう	9	ドキュメントで日記を書いて先生に提出しよう	①	Google ドキュメントをひらいて、キーボードのローマ字入力で日づけを入力しよう
		②	つかいおわったらログアウトしよう			②	きのこの日記を書こう
10	しゃしんやどうがをとってみよう	①	じぶんのなでば「けしこも」をしゃしんでとってみよう	10	ネットであそびながら分かったことをFigmaに入力しよう	①	Google ドキュメントを、先生にいていしよう
		②	しゃしんがとれているかどうか、ひらいてかくにんしよう			②	ずきなまの(どうぶつや)を1つえらんで、そのまの(えさ(卵を食べるか))をしよう
		③	とけいのしゃしんのなまを「とけい」にかえてみよう			③	あんだどうぶつについて、とくちょうなどをしらべ、あそびで入力しよう
11	ネットであそびしてみよう	①	にやうりくしてあそびよう			④	べつのだうぶつについて しらべ、えらんだどうぶつといていところ・ちがうところを、あそびで入力しよう
12	クラスルームのかだいをやってみよう	①	にやうりくしてあそびよう			⑤	作ったスライドを、タブレットの画面で見せながら、友達にばいようしよう

実態に合わせて
情報活用能力育成の時間を確保動画を使用した
情報モラル教育情報モラル、アプリ活用、タイピング
スキルについては、継続的に指導

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容②】 情報活用能力の育成

ランキングをモニターで提示（打数、伸び率）→児童の意欲付け

のび率の把握

10月のタイピングタイムの結果

回数部門 「合っていた数」が多かった人

	1 位	2 位	3 位
3 年	332回	298回	289回
4 年	597回	573回	440回
5 年	533回	504回	439回
6 年	606回	584回	570回

10月のタイピングタイムの結果

のび部門 前の月から大きく回数がのびていた人

	1 位	2 位	3 位
3 年			
4 年			
5 年			
6 年			

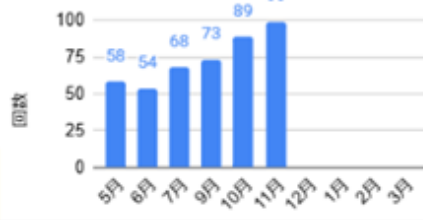
11月から12月▼

【クラス順位】
1位
2位
3位
4位
5位
6位
7位
8位
9位
10位

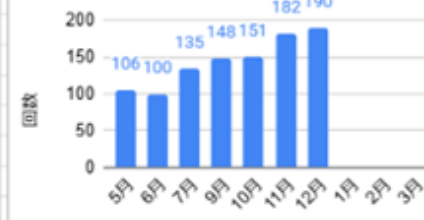
5年1組			
名前	伸び率	11月の回数	12月の回数
Aさん	136.4%	88	120
Bさん	116.0%	156	181
Cさん	111.7%	213	238
Dさん	111.0%	254	282
Eさん	108.2%	110	119
Fさん	104.3%	139	145
Gさん	102.4%	287	294
Hさん	102.4%	290	297
Iさん	100.9%	114	115
Jさん	99.5%	197	196

学年・個人の打数変容の把握

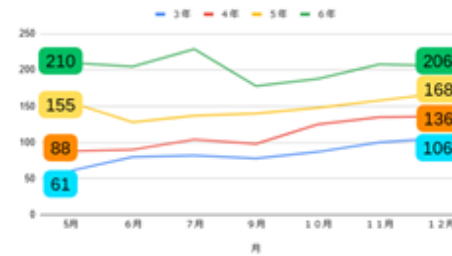
3年1組1号



3年1組2号



タイピング打数（1分間あたりに換算、小数点以下切り捨て）



5月→12月の伸び

学年	伸び
6年	大きな変化はなし
5年	13文字アップ
4年	48文字アップ
3年	45文字アップ

毎週金曜日の朝自習の時間に「タイピングタイム」を設定した。タイピングソフトを使い、月一回、フォームで打数を集計している。ICT支援員に記録集計のシートを作成していただいた。シートには、打数だけでなく、伸び率や各クラスの平均、各月の変容、グラフなど様々な情報が集約されており、児童の様子が非常に把握しやすくなった。

【取組内容④】 情報の一元化と汎用アプリケーション活用

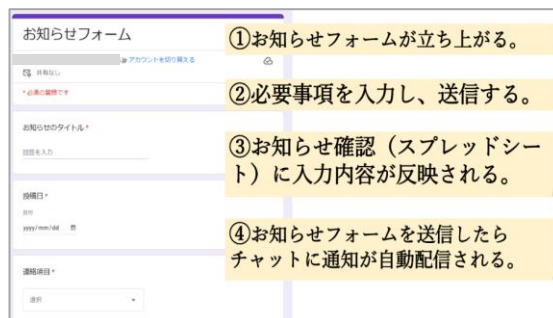
サイト「職員HP」に情報を一元化



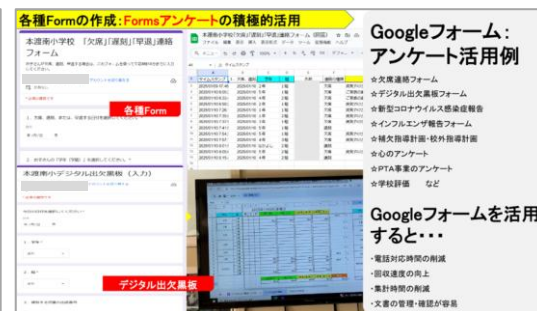
お知らせ及び連絡事項がある先生は、下記の↓↓「お知らせ入力フォーム」に入力して下さい。



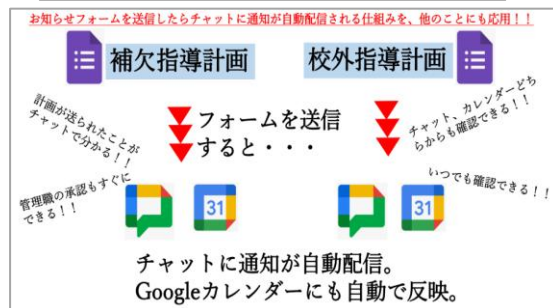
職員へのお知らせ（フォーム）



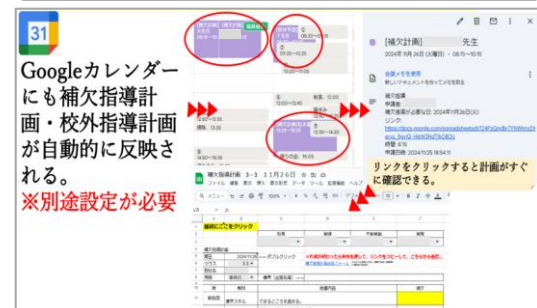
各種アンケートフォームによる情報共有



フォームとchat・カレンダーの連携



その他アンケートフォームの活用



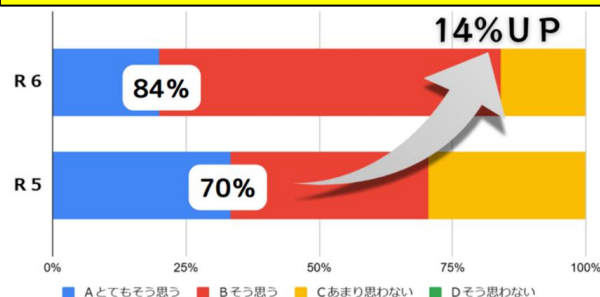
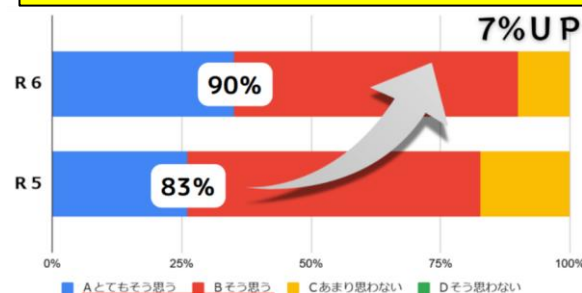
職員サイトを作成し、情報の一元化を行った。職員が出勤してから毎朝確認を行うページも作成し、情報共有の漏れがないようにしている。具体的には、職員へのお知らせの発信や閲覧、各種フォーム（遅刻欠席児童、補欠指導計画、校外指導計画など）、校内研修、行事等の計画、年休確認などの情報が集約されている。

フォーム、chat、カレンダーなど、アプリを活用した情報共有については、クラウド上でやり取りが行われ、アプリ間の連携も図っているため、「いつでも、どこでも、だれでも」という、クラウドの良さを職員は感じている。校務におけるアプリ活用は、業務の効率化だけでなく、授業における端末活用のイメージの具体化にも繋がっている。

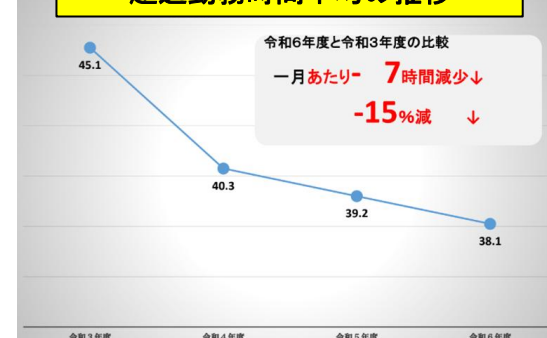
リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容④】 校務改善の成果と課題、改善策

ICTを活用して校務に取り組むことによって、
在校時間は短くなりましたか？校務にICTを活用していること（経験が）
授業に活かされていますか？

超過勤務時間平均の推移



ICTを活用した校務改善の課題

情報

- ・**情報過多**: 情報量が膨大になり、必要な情報が探し出しにくい、あるいは、情報が氾濫しすぎて取捨選択が困難になる。
- ・**情報の質**: 情報の信頼性や正確性が担保されていない場合があり、誤った情報に基づいた判断をしてしまうリスクがある。

人材

- ・**スキル不足**: ICTツールの操作や活用に関するスキルが不足し、十分に活用できない。
- ・**デジタルバイド**: 年齢や経験によってICTスキルに差が生じ、情報格差が拡大する。

システム・環境

- ・**セキュリティ**: 情報漏洩や不正アクセスなど、セキュリティリスクが常に存在する。
- ・**システムの安定性**: システム障害やトラブルが発生し、業務に支障が出る可能性がある。

組織・運用

- ・**コミュニケーション**: 非対面でのコミュニケーションが増え、誤解が生じたり、コミュニケーションが円滑に進まない場合がある。
- ・**ワークライフバランス**: ICTの利用により、仕事とプライベートの境界線が曖昧になり、長時間労働やストレスに繋がる可能性がある。
- ・**組織の文化**: ICTの導入によって、既存の組織文化や業務プロセスが変化し、抵抗感や混乱が生じる場合がある。

校務改善の今後の改善策

ICT研修の充実

職員向けに、ICTツールの使い方や活用方法に関する研修を定期的実施する。

情報共有のルール作り

情報共有のルールを明確にし、情報の整理と検索を容易にする。

ICT活用事例の共有

チャットだけでなく、定期的な会議や面談を実施し、双方向のコミュニケーションを促進する。

ICT活用事例の共有

成功事例や失敗事例を共有し、ICT活用のノウハウを蓄積する。

困った場合

相談体制を整える。

便利なもの、効率化を図れるもの

天草市内及び県内の学校にどんどん活用について発信していく。

サイトを活用した情報の一元化やアプリ活用の充実によって、様々な面で業務の効率化が進んでいる。職員へのアンケート結果からも、在校時間の削減や授業への利活用に繋がっていることが分かる。

課題点は大きく分けて、共有する情報の質と量のバランス、職員の活用スキルアップに向けた人材の確保と活用、セキュリティやシステム運用の仕方の整備などが挙げられる。これから、研修の充実やルール作成、活用事例の共有など、改善策を講じていく必要がある。